

目録の祐



大田ゆうすけ No.3
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

る、オンブズマンより再考を求める要望書が議長宛に提出された。ツアー料金は10日間25万円と格安であり、宿泊はユースホステルの6人部屋という質素なものだった。その内容よりも議員が公費でヨーロッパに「旅行」に行くと思えられたようで、説明したがご理解いただけず、結局は自費で参加した。議員には庶民感覚も必要だが、広い視野を待たずして将来を見越したまぢづくりは出来ないのではないだろうか。

そして今年度私は「こんなに使いにくい政務調査費はいらない」と受給申請を行わなかった。私には議員報酬以外の報酬は無く、年間156万円の調査費減は非常に痛い。しかし、生活に困窮する市民や東北の被災者のことを考えればこの程度は我慢しなければならぬとも感じている。

多くの議員は真面目に政務調査を行っているので、どうかマスコミやオンブズマンは批判するばかりではなく、調査内容の評価もしてほしい。ただし、調査費でパソコンやデジタルカメラ等のハード機器を購入する議員も多いが、それらにより政務調査活動をホームページやブログにアップしている議員は極めて少数ということも事実である。

政務調査費の批判について

最近の地方議員批判の代表例として政務調査費がある。その名称から政策立案に関する調査研究に使われているかと思えば、実際には不適切な使用例が多々あるとしてマスコミから批判されている。極端な事例を大きく取り上げ、まるで無駄使いの象徴のようにこき下ろしている。こうした風潮は議員の「やる気」を削ぐだけである。市民生活の改善は議員の熱意とやる気にかかっているはずだが・・・現在は議員が利権にからむことも出来ず、事あるごとに批判されては、選挙の洗礼を受けてまで議員を目指す人が減るのは当然かもしれない。

福山市議は月額13万円の支給があり、私は適切な使用を心掛けていたつもりであった。しかし昨年、フランス・ドイツの環境・公共交通政策の視察ツアーに参加しようとしたとこ